

# 子ども・子育て支援事業計画の 基本理念について

令和元年度第4回柏市子ども・子育て会議  
(令和元年10月28日)

# 1-1 基本理念の考え方

---

子育て支援のあり方等に関するこれまでの子ども・子育て会議での意見や子ども・子育て支援制度の主旨などを踏まえ、

柏市の子ども・子育て支援の基本的な考え方を

みんなで共有できるように、

だれもが分かりやすい言葉で表現する。

# 1-2 子育て支援のあり方等に関する意見等

平成27年度～令和元年度会議録より

	意見	会議
すべての子ども・多様なニーズ	希望が減少したことをもって「ニーズがない」と見るのではなく、 <u>多様な子育てニーズ</u> に対応する多様な選択肢を、行政が支援することが大事。	H30第4回
	マイノリティのところをどうしていくかは深刻だ。貧困やハンディキャップなどについての対応は、子ども・子育て会議の審議事項ではなく、他の計画により対応を位置付けられているが、私たちがそこを忘れてはいけないと感じた。	H30第4回
	教育が推進されているが、発達に課題があるなど、 <u>特別なニーズのあるお子さんも見込んでいるか</u> 。	R1第2回
	働きながら子育てができるようにとの動きがある中、未就園児を自宅で見ている人もまだまだ多い。児童センターや地域子育て支援センターなどもあるが、 <u>そちらへも支援の目を向けていただきたい</u> 。公園も少なく、幼稚園・保育園へ行く子も多い中、母親同士のコミュニケーションも減っていると感じる。	H27第2回
	パートで働きたい母親は、保育園も幼稚園も要件が合わず預けづらいと聞く。小学生の親も急病や冠婚葬祭のときに困っている人がいる。 <u>各ニーズにあったサービス</u> が求められている。	H27第2回
	経験がないから(障害児を)受け入れられない等は、子どもの福祉になるのか、たくさんあればいいのではなく、責任ある立場の人がやることが望ましいと考える。	H28第2回
	発達に遅れのある子が増えていると感じている。支援を強化するとき、幼稚園・保育園とは連携を取ることと思うが、子どもが小さいうちから家庭をサポートし、連携を大きくして途切れないようにしたい。 <u>小さいときから親が自信をもって育てられる制度</u> ができればよい。	H28第3回

# 1-2 子育て支援のあり方等に関する意見等

	意見	会議
子どもの 幸せ	児童福祉法改正があり(略), 主体的権利の尊重の話と、 <u>子どもの最善の利益</u> の確保、この二つは子育てに関わる人たち、あるいは支援に関わる人たちだけの問題ではなく、市民全体が再認識すべきことだと思う。子育てや子育て支援全ての出発点になる考え方である。	H29第2回
	<u>チルドレンファースト</u> ということ言えば、柏市内のいかなる子どもたちも子ども・子育て支援事業計画は見逃してはならない。	H29第2回
	幅広く、保護者がいろいろなものを見聞きする機会があるといいかもしれない。深まった話ができる。「 <u>子どもの幸せとは何なのか</u> 」が基本だと思う。	H27第1回

# 1-2 子育て支援のあり方等に関する意見等

	意見	会議
連携 つ な が り	保育園、子育て支援センター、児童センターなどの <u>連携を深めていくことが大事</u> である。	H30第5回
	地域子育て支援拠点事業や子育てサロン、市民活動で実施している子育て応援情報誌「touch」の作成など、子育て支援事業がそれぞれに活性化してきている。そういった事業が総合的に把握され、地域ごとの一覧性があるなど、 <u>有機的につながると</u> 良い。	H30第5回
	市として妊娠期から18歳まで <u>切れ目なく子どもを見ていくことが大切</u> 。(略)認定こども園、保育園、幼稚園などは地域の拠点となり、行けば安全という場所にもなっている。連携していければ良い。	H30第5回
	「切れ目ない支援」について大賛成だが、保育園の子どもだけでなく、産前産後に悩んでいる姿も多く見ると、 <u>地域でつながって</u> 助けていかなければいけないと思う。	R1第2回
	いろいろな分野で力を合わせて柏に子どもがいられるような <u>支援の輪</u> を広げていかななくてはならないと思う。	R1第3回
	質の確保・向上について、(略)以前に比べれば子ども同士の交流は増えているが、保育士・幼稚園教諭と学校の教員との交流がまだまだ不足しており、お互いが理解されていないと感じる。	H28第2回

# 1-2 子育て支援のあり方等に関する意見等

	意見	会議
一歩踏み出してほしい	医療機関にも行かず、 <u>悩んでいるが誰に相談してよいか分からない方もいる。</u>	H29第4回
	不安や不満を吐き出したいと思っている方はたくさんいると思う。	H29第4回
	家庭内保育の方を外に出すためにも、市と民間が更に繋がり、近くの保育所や支援センターの紹介をしていければと思う。柏市の子どもを守るために情報を共有してほしい。	H29第4回
	産後に <u>小さな悩みを相談する場所がない</u> と言う母親の話を聞く。切れ目のない支援に力を入れて、現場と柏市が協力できれば良いと感じる。	H30第1回
	<u>子育てが辛い</u> という人も多く、子どもと親の気持ちをすくっていくことがすごく大事だと思っている。(略)相談先がネットワークを持ち、横のつながりが強くなると、子どもを救えないのではないか。保育園や地域子育て支援センター、妊娠子育て相談センターなどが専門機関とつながるような社会となることを望む。	H30第4回
	主任児童委員として、家庭に困り感がある方などを訪問しているが、 <u>「相談しなかった」方にどうアプローチしていくか</u> 、必要な支援にどうつなげるかを考えていきたい。	H30第4回
	保育園で育児相談を募っていても利用者数は少ない。子育て支援センターのようなつどいの場で保護者の方の気持ちを引き出しているのが現状。	H30第5回

# 1-2 子育て支援のあり方等に関する意見等

	意見	会議
教育 保育 地域 子育て 支援の 質	量・質ともよくするのはもっともな話だが、保護者寄りのニーズをとらえて施設をたくさん作っても、委託後の指導がきちんとしているかや <u>子どもたちにとって何が大事か</u> といった部分をしっかりとらえていないと質がゆるんでしまったりということがある。保護者は(略)見えるものに目が向きがちだが、柏市は質の高いものを提供している、地に足がついている支援をしているということが保護者にもわかる機会があるとよい	R1第3回
	子どもにとっては、 <b>3歳までの育ちがとても大事</b> である。意欲を持って活動に取り組める環境を作っていくことが保育の大きな役目だと思う。教育というと、「読み書きそろばん」というイメージがあるが、乳幼児期の教育とは何かを保護者に分かってほしいし、伝えていくつもりである。	H27第1回
	(各園や市が) <b>一緒に保育を作り上げていくというスタンスが大事</b> 。今後も交流などをして質を底上げする取り組みを続けていきたい。	H27第2回
	保育の質という視点で見ると、今まででも最低基準なのに、さらに入園できる定員を増やし、保育士も増やすことを考えると、 <b>量と同時に子どもの生活の質は確保していかないといけない</b> と思う。	H27第3回
	(子育て世代包括支援センターでは)、家庭を持つことや育児を担う責任など、人間として生きるために重大な役割を発信してほしい。また、子育てを卒業した世代にも「支援できる」という情報を出してほしい。	H28第2回
	世界的に小さい時期の子どもの育ちが重要と、位置づけがされてきている。子ども一人ひとりを見れば、「移行期間だからいい」ということではないので、 <b>質の確保</b> は是非一緒にやっていただきたい。	H28第2回
	子どもの命をきちんと守れる、育ちを支えていける、質の担保をきちんととれる事業者を選定することが大事である。(略)質の担保ができる福祉の理念を持った事業者を選定していただきたい。また、(略)保育士養成校と一緒に福祉を生み出せるようなことが構築できたらよい。	H28第3回
	小学生もまだまだ心の受け止めが必要で、一人一人を見ていくということが必要になる。学童保育についてはもう少し力を入れて、職員の研修や気持ちのバックアップを行ってほしい。それが <u>子どもの安心</u> につながると思う。	H29第3回

# 1-2 子育て支援のあり方等に関する意見等

	意見	会議
保護者の思い、 保護者の思い	現計画では「量」の達成を目標としていたが、「質」の部分が求められるということがわかる結果。保護者としては育ち方、育て方を重視しているのではないか。	H30第4回
	「子育ては楽しいがいらいらすることもあり、どちらもあって当然だ」という意識を <u>子育て世代にどう伝えていくかが大事</u> 。	H30第4回
	「愛の鞭ゼロ作戦」というリーフレットは、虐待など多くの問題の根底となる部分だと思っている。柏市でも独自で「 <u>家庭内での体罰はいけないことだ</u> 」ということをはっきりと前面に打ち出していけたらよい。いろいろな問題の解決のヒント、基となるのではないか。子育てしている人も支援している人も広く知るべきである。	H30第4回
	保育の無償化を受けて「働きたい」という親の声が届くことがとても多いが、保育はサービスではない。 <u>親の都合ではなく、子どもを中心とした機関、相談場所であることが必要</u> だと思う。	H30第5回
	(無償化により)保育料を何に使うかなど、子どもに対する本来大事にしないといけないところが少しずつれているような気もしている。まずは親の心の受け止め、また(略)子どもの心に対して本来必要な受け止めを、保育の専門職として必要なアプローチができる状況にしたいと思っている。	R1第2回
	(略)人の意識が世の中を変える。勤務時間がかかっているということがわれわれの地域においては子育てに影響すると思う。父母どちらかが勤務時間が短い仕事に就けば、家庭の夕食時間が早くなるし、子どもの睡眠時間が確保される。あるいは家庭の友好も図れるのではないかと考えている。	R1第2回



## 1-3 基本理念（案）

# すべての子どもの幸せを ともに守り育てるまち かしわ

すべての子どもの	子ども・子育て会議では、特にマイノリティとされる多様なニーズを持つ子どもや親子を漏らさず支援したいとの意見が多く出された。また、「すべての子ども」を対象とすることは児童福祉法や子ども・子育て支援法などの制度とも合致する。
幸せを	法や子ども・子育て支援制度が目指すところである「子どもの最善の利益が実現される社会」を示し、子ども・子育て会議の意見でも発言された「『子どもの幸せとは何なのか』が基本」などの言葉を表す。
ともに	子ども・子育て会議ではたびたび支援者が「つながるべき」「連携するべき」と発言されてきた。「すべての社会の構成員が各々の役割を果たす」という制度上の理念をも表す。
守り育てる	「子どもの権利」を守る、命を守るということ、「孤立させず、みんなで子どもを育てよう」という姿勢を示す。
まち かしわ	こうした精神を計画としてまちづくりに反映するという決意。